

# NEWSLETTER No. 34



**CWS  
JAPAN**

Church World Service

## ミャンマー水害常襲地におけるコミュニティ生活道路改善プロジェクト

第32号でお知らせした通り、この4月からミャンマー、エーヤワディー管区マウビンタウンシップにおいて、新たにコミュニティ生活道路改善プロジェクトが始まりました。事業の進捗確認と今後の計画打ち合わせのため、GWの連休中、事業地に滞在しました。同地域では、住民によれば過去10年の間に気候が変わったようで、毎年、豪雨によって洪水が発生しています。エーヤワディー川の流れも急になると共に、川幅が広がり、河岸侵食が年々進んでいます。私は一昨年から3回ほど事業地を訪れていますが訪問する度に目に見えて陸地が削られているのが分かります。洪水と河岸侵食によって、住宅は流され、移住を繰り返すことで生活は困窮し、住民は借金から抜け出すことができません。

河岸侵食を完全に食い止めることはできなくとも、せめて進行を遅らせるような緩和策を考えられないかと、昨夏、土木専門家と共に現地調査に入りました。様々な検討を行いました。増水した強い川の流れによって河岸侵食対策工が流されたり、また、対策工によって一か所が浸食緩和されることによって、同じ川沿いにある他の村が悪影響を受ける可能性も考えられることから、今後検証が必要であることが予想されました。また、このプロジェクトは、建設業者に委託し、重機を使った工事は考えていません。それは、地域住民自身がニーズを感じ、労働提供することによって、身の丈に合った対策を講じることができ、将来的に地域で対策工の維持管理を行っていくことを目指しているからです。日本でも治水工事は16世紀から人力によって行われていましたが、様々なリスクが伴います。

このような事情から、準備段階として、今年度はすぐにでもできる防災対策をと、住民ニーズの中で第二の優先課題として挙げられていた生活道路の改善を

住民の労働提供を条件にCWSからは、2つの村を対象に資機材とランチを提供し、エンジニアによる技術支援から始めることになりました。4-5月に訪問した時は、既に6月に始まる雨期に向け、急ピッチで工事が行われていました。また、6月末に事業地を訪問しますので、次号でまた進捗をお伝えしたいと思います。

(文：プログラムマネージャー 牧 由希子)



地域住民による生活道路のかさ上げ工事

## アジア地域における災害対応向上の取り組み

アジアは世界の中でも災害が多発する地域で、被災者数や経済損失を見ても、世界の被災者の半分以上が集中しています。気候変動の影響により、豪雨災害や干ばつなどの気象災害が多発する中、CWSは以前より災害対応の取り組みをどう向上していくのかを議論してきました。CWSは日本に加え、バンコクに地域事務所、カンボジア、ベトナム、インドネシア、東チモール、ミャンマーにカントリー事務所を置き、コミュニティ開発事業や緊急支援、防災活動などを展開しています。2004年のアジア大津波、2005年のパキスタン北部大地震、2008年にミャンマーで発生したサイクロン・ナルギス、2011年の東日本大震災、2013年にフィリピンで発生した台風ハイランなど、これまでアジア地域で発生した大災害には必ず対応してきました。しかし、昨今の増え続ける災害リスクに対して、今まで通りの対応に限界を感じ始め、抜本的に災害支援を見直そうと、2019年5月、

それぞれの事務所代表がバンコクに集まり、米国国際開発庁、国連人道問題調整事務所、CWSも加盟するACT Allianceなども参加する中、多角的な視点から検証・議論を行いました。この協議から導き出した方向性としては、①CWSが取り組む全てのコミュニティ開発事業には防災・気候変動適応の要素を盛り込む、②より迅速な人道支援の展開に向けて人的・財的体制を強化する、③サイエンス・コミュニティや企業のリソースを積極的に活用できるよう協働の幅を広げる等、防災や気候変動対策にCWS全体として積極的に取り組む姿勢が強調されました。これらの新たな方向性において、CWS Japanもリーダーシップを発揮する事が期待されています。

日本は歴史的にも災害の教訓を数多く有しており、防災のノウハウや技術も先進的です。日本から諸外国に伝えられる「防災のサイエンス」に着目しながら、より迅速で効果的な災害支援が行えるよう、引き続き努力していきます。（文：事務局長 小美野 剛）



会議に参加したアジア地域のCWSの仲間建と

## 越谷レイクタウン防災フェス2019出展

5月25日（土）と26日（日）に埼玉県越谷市で開催された「レイクタウン防災フェス2019」にブースを出展しました。

会場の「イオンレイクタウン」は、約33万平方メートルの敷地に、3棟の建物、約700の店舗、約1万台の駐車場を有する大規模なショッピングセンターで、2008年にJR新駅とともにオープンしました。防災フェスの2日間は記録的な猛暑となり、ブースが並んだ駐車場の暑さはひとしおでしたが、多くの買物客や家族連れで賑わいました。

越谷市消防本部、埼玉県警、自衛隊による、はしご車、パトカーなどの専用車両の体験や、たくさんのゆるキャラたちが人気を博し、熊谷地方気象台、赤十字、住宅メーカー、防災に取り組む多様な団体の出展がありました。

CWS Japanは、「見て学ぼう」グループのなかで「アジアの防災活動から」をテーマに、アフガニスタンでのハザードマップ作成、ミャンマーでの道路改修、ベトナムの土砂崩れ調査、パキスタンでの干ばつ対策のための井戸調査、西日本豪雨で被災した岡山県真備町の写真パネルを展示し、真備町に関するレポート、仙台防災フレームワーク小冊子と、持ち運びに便利で消毒機能のある圧縮タオルを、希望者に配布しました。

用意したインドネシアのコーヒーとミャンマーのお茶は、猛暑のため、来場者に振る舞う機会がほとんど無く、残念でしたが、CWS Japanの活動に関心をもっていただき、今後の連携可能性のある方々と出会うことができました。また、多様な団体、たくさんの老若男女と参加することで、防災には多くの団体と人々の備えと連携が必要であることをあらためて認識し、そのためにCWS Japanが出来ることは何かを考える良い機会にもなりました。

（文：総務会計担当 高松 知文）



CWS Japanの出展ブース



子供達に大人気だった消防署によるはしご車体験